

歩いて巡ろう
多摩区まち歩きMAP
てくてくたま

津久井道と職人の街を歩く

津久井道は、江戸時代から炭や柿などを江戸城下に運ぶ街道だった。このコースでは、現在は下駄、提灯、馬具などの職人の店が並んでいた津久井道・登戸宿の面影をたどる。

Check!

津久井道のデザインマンホール

登戸で親しまれてきた歴史資源を未来に継承し、地域への愛着を醸成する取り組みとして公募した津久井道沿道のマンホールデザインが、多摩区民投票により決定し令和6(2024)年に設置された。

カラー版1カ所、通常版7カ所を設置



2 登戸の渡しと多摩水道橋

昭和28(1953)年に多摩水道橋が完成するまでは、渡し船が川崎と東京を結んでいた。下流から六郷・矢口丸子・二子・そして登戸・菅にあった。東京都に送水するためにできた水道との併用橋として造られた多摩水道橋の完成により「登戸の渡し」は長い歴史に幕を閉じた。

多摩水道橋



登戸渡しの碑



津久井道と職人の街を歩く

距離：4km
時間：約2時間



多摩区の農産物

8月中旬 多摩川梨

多摩川流域を中心に梨の一大産地が広がる。川崎が発祥地といわれる「長十郎梨」をはじめ、人気の高い「幸水」や「豊水」などさまざまな種類がある。糖度が高く、甘いのが特徴。



春には白いきれいな花を咲かせる

直売もぎ取りも!
多摩区内の農園の情報については、7月頃にJAセリサ川崎のHPに掲載予定。

田村果樹園

5代目、田村賢太郎さんの祖父の祖父から続く梨園。中野島駅から徒歩4分の場所に1ヘクタールの梨畑が広がる。販売品種は幸水、豊水、秀玉、あきづきなど7種類。園前の売店で直売・発送ほか、もぎ取りもできる(完全予約制)。

☎044-944-7941 な-2
🏠中野島1-7-10
🕒9:00~18:00(詳細はHP参照)

※天候や生育状態により変更の場合有



2月下旬~ のらぼう菜&かわさきつや菜

のらぼう菜

のらぼう菜は菜花の一種。菅地区では800年ほど前からつくられており、今でも200軒の農家が栽培をしている。2月~5月上旬の収穫期には農家の軒先などで販売される。



レシピ

のらぼう菜はアクが少なく、甘みと独特の香味が特徴。定番のおひたしや胡麻和えはもちろん、生のままサラダにするのもおすすめ。フルーツと一緒にスムージーにしても◎

菅地区の農家の軒先や地元スーパーなどで販売



多摩区生まれの新品種「かわさきつや菜」

多摩区菅地区で古くから栽培されている伝統野菜「のらぼう菜」。市農業技術支援センターが研究を10年以上重ね、平成31(2019)年に新品種「川崎市農技1号」が誕生。多くの人に親しんでもらえるように愛称とロゴマークを公募し、「かわさきつや菜」に決定した。のらぼう菜と比べて葉や茎に光沢があり、くせがなく強い甘みが特長。収穫期の2月下旬から4月上旬頃まで、JAの直売所などで手に取ることができる(数に限りあり)。



梅

岸井梅園

約60年前、台風の土砂崩れで荒れ果てた農地を再生しようと植えられた梅の木。現在も2代目園主の岸井洋一さんが、約130本の木を守り続ける。2月中旬には花が見頃を迎え、5月中旬の収穫期には青梅の直売も行われる。

☎044-977-6107 な-4
🏠長沢2-8961



イチゴ

Strawberry Farm BUNKAEN

平成30(2018)年に多摩区で初めて開園したイチゴ農園。園主の北見純一さんはAIを活用したきめ細かな栽培管理により、人とAIが協働する農法で高品質なイチゴ作りに取り組んでいる。収穫は12月末から始まり、2月頃からはイチゴ狩りも行っている。

☎090-4373-1583 な-2
🏠榎形1-8-12



上原さんちのいちご畑

南武線・稲田駅駅から徒歩約6分と、アクセスの良さがうれしい。甘み・酸味・香りの3拍子が揃った「よつぼし」や、イチゴ本来の甘酸っぱい味を堪能できる「べにほっぺ」を中心に直売などを実施。例年1月中旬~5月頃までは、イチゴ狩りも行っている。

☎090-4226-1515 な-1
🏠菅稲田1-12-27 毎月・金曜

